

12月はスイス風なまはげ!? クラウスヤーゲン/聖ニコラウスの日

12月といえば、クリスマスが最初に思いつくイベントかと思います。しかし、日本のようにクリスマスはご馳走を食べて、サンタクロースがプレゼントをお届けにくる風習とは違った風習のクリスマスが世界にはあるようです。

そこで、今月はスイスのクラウスヤーゲンという伝統行事を紹介します！
クラウスとは「聖ニコラウス」の意味です。ニコラウスはキリスト教の司祭で、キリスト教信仰のある国では守護聖人として祀られている人なんだとか。ここでは、サンタクロースと同じ意味を持つ言葉だそうです。

ヤーゲンというのは「追い払う」という意味があるそうです。
つまりクラウスヤーゲンとは、ざっと翻訳すると「サンタクロースを追い払う」という意味になります……。

サンタクロース追い払ったらあかんやん!と何も知らない私は思わず突っ込んでしまったのですが、これにはどうやら起源があるらしいのです。

昔、凶作で困った民が食べ物を探しに航海へ出た際に、海賊に襲われます。
その時、食べ物や金品の代わりに子どもを差し出すように要求された所、聖ニコラウスが自分が持っているものや教会のものを差し出し、海賊を追い払い子どもを助けたというお話があります。

この聖ニコラウスの言い伝えと、地元の厄払いの祭りが重なってクラウスヤーゲンが始まったのではないかと
言われています。

お祭りでは鞭やカウベル、牛の角笛を鳴らしながら歩く人(悪霊を追い払う儀式なんだそう)や、イッフェレという綺麗な装飾を頭に乗せて歩く人。ブラスバンドや黒で身を包んだお供と一緒に歩く聖ニコラウス一行が練り歩くんとか。

とりわけ、12月6日は聖ニコラウスの日と呼ばれており、スイスではニコラウスがサンタの格好をし、鞭を持って悪い子を精査しに来るそうです。良い子にはみかんとナッツをプレゼントしてもらえますそうですが、悪い子は鞭打ちにあたり、地域によってはサンタが担いでいる白い袋に入れられ森に放置されるんだとか。

サンタ怖すぎ~(笑)日本でいうなまはげ文化に近いみたいですね。
なのでスイスの子どもたちはこの時期になると「良い子にしないとサンタに連れ去られるよ~」と言われるらしいですよ。どこの国も一緒だなあと笑ってしまいました。

さて、スイス流のサンタ文化を再現するにも、流石に鞭打ちや森に放置するわけには
いけないので(笑)

あと多分うちの子は良い子だし…良い子だよな…うん、良い子ということにしよう。
我が家では12月6日にみかんとナッツを食べようかなと思います。

